

全国の老朽下水管の改修に関連して

不幸な事故をきっかけに、老朽化した下水管からの漏水ないし、破損した下水管への土砂流入が周辺地盤の空洞形成や地表の陥没を引き起こしていることが広く認識され、下水管の改修が広く早急に実施される見通しです。補修には管の内部にシース管を挿入する方法もありますが、空洞が形成されている場合などは特に、開削と管の再埋設という手順になるでしょう。私はそれと同時に下水施設の液状化対策も実施しておくべきと考えます。近年の地震災害では、下水管の埋め戻し土が液状化して下水管の機能を損傷し、災害復興の障害となった例が数多くあります。対策として埋め戻し土の強化が唱えられては来ましたが、工事コストの点で、ほとんど実施に至っておりません。今回、老朽化対策として下水管の開削が行われるとすれば、同時に液状化対策も実施することが、いわゆる一石二鳥の好機と考えられます。具体的には、埋め戻し土へのセメント混合、管の浮き上がり防止治具の設置、など多くの方法が存在します。

東畑郁生